

中国少数民族の漢語教材

新 島 翠

Chinese Language Teaching Materials for Minority Groups in China

Midori Niijima

Summary

In this paper I discuss Chinese language educational materials for minority groups in China, and examine the educational history, types and systems. It is necessary to review the educational methods and texts in current use in order to have a better understanding of the situation in China. On the one hand I examine the history of the educational guidelines in force from 1940 to 1990, while on the other I look at junior high school textbooks used by ethnic Koreans who live in the northeast region of China.

Key words: Chinese language teaching materials, educational guidelines, minority groups in China.

Received Sept.30,1996.

中国少数民族に行われている漢語教育について、筆者はこれまで二言語教育の側面から、その歴史、教育類型、学制などについて調べてきたが、その過程で、各少数民族の使用している教科書や教学方法などについて、具体的な状況を知ることが、全体を把握するうえで不可欠であると感じてきた。そこで本稿では、教科書編製の基準となる中国の学習指導要領について、新中国成立以来の改訂の歴史とそれに伴う教科書の変遷をたどる。さらに、少数民族の教科書の事例として、中国東北地域の朝鮮族の中学漢語教材をとりあげ、全国通用教科書との比較を試みたい。

1. 語文教学大綱の改訂と教科書の変遷

中国で使用されている教科書には、人民教育出版社が編集する全国通用教科書、および省、自治区、直轄市の編集による郷土教科書、少数民族地区で使用されている教科書などがあるが、いずれにおいても編製の基準となっているのが、国家教育委員会から発布される「教学

大綱」である。いわば日本の「学習指導要領」に該当するもので、教科別、学校別（小・中・高校）に制定されている。「教学大綱」は中華人民共和国成立後に制定された暫定的なものから現在まで、数度にわたる改訂が行われており、その度に教科書も改訂を重ねてきた。そこで、筆者の研究テーマである二言語教育と最も関わりの深い国語の指導要領である「語文教学大綱」に焦点をしぼり、改訂の歴史と教科書の変遷をおおまかにたどることにする。

1949年新中国成立後、陝甘寧辺区において「初級中学語文課程標準草案」が作られた如く⁽¹⁾、先ず各解放区において教学方針案が作られていくが、全国統一の「教学大綱」といえるものはまだ出されていない。教科書は、『初級中学国文』『高級中学国文』などが作成された。この時点では、実用的な国語力の向上を教学の主な目的として、課文には古文から現代文まで広い範囲から選ばれた文章が採用されているが、編集などに必要な工夫がなされるまでには至っていない。しばらくの間はこれらの教科書に改訂・補充が加えられて使用される⁽²⁾。1950年9月、全国統一の教科書を作成するため、人民教育出版社が設立され、以後現在まで同出版社が中核となって教科書の編纂出版が行われている。1951年秋には人民教育出版社から『初級中学語文課本』（6冊）および『高級中学語文課本』（6冊）が出版された⁽³⁾。

1955年から56年にかけて、教育部から教学に関する基準が次々と公布される。すなわち、「初級中学漢語教学大綱（草案）」、「初級中学文学教学大綱（草案）」、「高級中学文学教学大綱（草案）」である。それに基づいて1956年『暫擬漢語教学語法系統』、『初級中学漢語課本』（6冊）、『初級中学文学課本』（6冊）、『高級中学文学課本』（6冊）が人民教育出版社から出版され、中学及び中等師範学校の語文科は新編の教科書を用いることが教育部から正式に通達された⁽⁴⁾。この時の『教学大綱』によれば、漢語科では言語に関わる事項を学び、文学科では文学作品と結びつけて文芸理論の一般知識を学ぶことが明示され、範囲は現代文学、古典文学、民間口頭文学などにわたっている⁽⁵⁾。

ところが、1957年政治運動が盛んになるにつれ、国語を漢語と文学に分けることに批判が起り、従来の文学教材および漢語教材に替わって、各省市が編纂した新語文教材が使われるようになった。1958年秋には人民教育出版社から教科書として『語文』が出版されている。しかし、頁数が少なく、内容も古文はほとんど採用されておらず、近代の作家としてとりあげているのは魯迅のみで、毛沢東の著作が大半を占めていた。国語教科書としての体系性はなく、むしろ政治思想教育のための教材といえよう⁽⁶⁾。

1963年、教育部から「全日制（十二年制）中学語文教学大綱（草案）」が公布され、中学語文は「各科目の知識を学び、各種仕事に従事するための道具である」ことが明示され、教学の目的は「生徒に言語文字を正確に理解させ、現代語文の閲読能力及び作文能力を備えさせ、簡単な文語文の閲読能力を得させることである」と明確な規定がなされた。内容についても「文学、社会科学、自然科学を含む古今内外の優秀作品」から教材を選ぶこと、「散文は課文全体の80%を占める」ことができ、文章選択にあたっては「質の高い美しいもの」が

望ましいと示された。また、編集についても、「生徒の閲読能力と作文力を高めるられるような順序」であることと規定し、訓練に重点を置いている。国語教科書として本来あるべき姿へと戻ることができたといえよう。またこの時期から文学科と漢語科が1つにまとめられ語文科となっている。語文教科書は全12冊を、初級中学・高級中学の6年間で学ぶ形態である⁽⁷⁾。

1966年以降10年にわたる文革を経て、1978年、教育部から「全日制十年制中学語文教学大綱（試行草案）」が出され、1980年に改訂が行われた。この改訂により、語文を一つの道具とみなす方向がさらに明確になり、「マルクス主義の観点から課文と語文知識を生徒に指導し、厳しく読み書きの訓練を行い、祖国の言語文字を正確に理解させ、現代語文の閲読能力と作文力、また簡単な古文の読解力を身につけさせる。」としている⁽⁸⁾。この時点では中学は5年制と6年制が行われていたが、語文教科書はいずれも初級中学6冊、高級中学6冊であった。1984年には文法教材『中学教学語法系統提要（試用）』が出版されている⁽⁹⁾。30年ぶりの新たな文法教材である。

さらに、1986年、国家教育委員会が78年の「大綱試行草案」に修正補充を行い「全日制中学語文教学大綱」として公布した。内容は「語文は学習と仕事に従事するうえでの基礎工具である」ことを従来より更に明確に規定し、「語文学科は現代、世界、未来に目を向けた教育方針を持たねばならない」としている。教学目的についても、「現代語文の閲読力、作文力」だけでなく「聞き話す能力の育成」を加え、かつ「生徒の視野を広げ、知力を伸ばし、社会主義道徳の情操を養い、健全高邁な審美観と愛国主義精神の育成」を目指す、としている⁽¹⁰⁾。1987年人民出版社はこの「大綱」に基づいて1978年の初級中学語文課本（試用本）に改訂を加えている。また、これとは別に、初級中学語文課本（試用本）『閲読』（6冊）、『作文・漢語』（6冊）が発行され、前記初級中学語文課本の副教材として、全国規模で試験的に使用された。また、『高級中学課本・語文』（6冊）も出版されている⁽¹¹⁾。

1990年、国家教育委員会は86年版「全日制中学語文教学大綱」に再度の改訂を加え「全日制中学語文教学大綱（修訂本）」を作成した。主な改訂箇所は、教学目的の項で語文訓練と思想政治教育との関係について「両者は一つで、互いに補完する関係にある」としていること、また、課文のなかの古文などを一部削除したことである⁽¹²⁾。この「教学大綱」改訂版に基づき、人民教育出版社は1991年に教科書を改訂したが、内容、項目ともに大幅な変更はない。「語文教学大綱」と教科書の改訂は現在も引き続き進められている。

2. 語文教学大綱の概要

新中国となってから何度もの改訂がおこなわれた「語文教学大綱」は、全国通用語文教科書の編制基準であるとともに、少数民族が使用する漢語教科書とも密接な関係をもっている。というのも、少数民族の使用する漢語教材は、全国通用教材を基礎にして編制されているか

らである⁽¹³⁾。そこで、中国における語文教材および少数民族の漢語教材の編制方針を理解するために、「語文教学大綱」の概要を90年版にもとづいてみていくことにする⁽¹⁴⁾。

「語文教学大綱」は、①前言、②教学目的、③教学要求、④教材内容、⑤作文教学、⑥教学中重視すべき事項、⑦各学年の語文基本能力と基礎知識に関する教学要求、⑧基本課文目録の8項目からなっている。①～⑥の中で、初級中学部分から特徴的な箇所をまとめると以下の通りとなる。

まず「前言」において、「語文は、学習と作業の基本的な工具である」として、国語が各教科学習の基礎であること、その成果が他の教科の学習に積極的な影響をあたえ、ひいては将来の仕事や学習のためにも必要であることが強調されている。また、社会主義の物質文明と精神文明の建設に寄与しなければならないとしている。

「教学目的」として、「生徒によい教材で学習させ、必要な言語基礎知識を教える。厳格な言語基本訓練を進め、生徒が祖国の言語を深く愛し、十分正確に祖国の言語、文字を理解し、運用でき、現代文の読む、書く、話す能力、易しい文語文を読む能力を備えさせる。」と規定し、現代文の運用能力を高める事を強調している。また、政治思想教育について「言語訓練と政治思想教育の二者は相補完するもの」とし、教学課程において「暗黙裡に、自然に、浸透する」よう、語文科の特質にもとづいて指導することとしている。

「教学要求」には「一般的な政治、科学技術、文芸の読み物を閲読して、思想内容を理解し、理路整然とさせ、単語、句の意味を理解し、言語に対する一定の感受性と基本的な文章作法を備えるようにする」と示されている。

「教材内容」では、「教材の選択にあたっては、表現・内容ともに優れ、学習指導の規範に適合するものが採られねばならない」として、具体的には

- 1) 思想内容が優れていること
- 2) 文章表現が優れていること
- 3) 学習指導に適合すること

があげられている。また、教材は初級中学6冊、高級中学6冊である。「基本課文」は合計170篇、そのうち初級中学が100篇、高級中学が70篇である。「基本課文」以外に、各省、市、自治区の教育部局が、地域の実状にあわせて統編教材と他の教材を差し替えたり自編補充教材を作成してもよいとして、地域差を考慮した調整がおこなえる方法がとられている⁽¹⁵⁾。

3. 語文教学大綱に示された教学要求

「語文教学大綱」の中で、具体的なカリキュラムを知るうえで参考になるのは、第7項「各学年の語文基本能力と基礎知識に関する教学要求」である。この項について詳しくみていくことにしたい。内容は次のとおりである。

中学1年

読む能力（閲読）

- 1) 記述文を読んで、文章の思想内容と記述の特徴が理解できる。説明文、議論文を徐々に読ませる。標準語で教科書の文章を朗読することができる。黙読する習慣を養って、黙読の早さを高めるようにする。
- 2) 辞書をよく引く習慣を養成する。常用語彙を増やし、身につけ、読み、書き、使えるようにする。「基本課文」の一部や段落を熟読して暗唱する。
- 3) 課外において、4～5冊の本を読む。

書く能力（写作）

- 1) 5～600字の記事、人を描写する文章が書ける。その場合、内容が具体的で、中心となる事項が明確であり、時間の順序に従って材料を組み立てることができ、できごとの発端、経過、結果がはっきり書けること。1～2の具体的な事例を使って、人物について特徴を書き出すことができる。
- 2) 文字を書く時の慣習を守る。筆順が正確で、筆画がはっきりし、字の形に規律が備わり、字体が端正であること。作文のとき、改行を正しく行うことができ、用紙にきれいに書けること。
- 3) 本を読んで、要点を書き出すことができる。講義を聞いて、記録をとることを学習し、題名と主な内容を書き取ることができるようにする。日記をつける練習をする。

聞く、話す能力（聴説）

- 1) 標準語が話せる。
- 2) 他人の話を聞くとき、ラジオ放送を聞くとき、注意を集中して、意味をはっきり聞き取ることができる。質問に答えるとき、態度が落ちついており、声をはっきりしていて、内容が明快である。
- 3) 教材や内容のやさしい読み物、映画やテレビドラマが紹介できる。見たり聞いたりしたことについて話すことができる。

基礎知識

- 1) 中国語の発音記号（ピンイン）の使い方を復習する。文字の構造を理解する。
- 2) 単語の意味を正しく理解し、一つの語が多くの意味を持つということを理解する。
単語・短い語句についての知識を学ぶ。
- 3) 比喩・擬人・誇張などの修辞法を理解する。
- 4) 文章記号の使い方を復習する。
- 5) 記述文の一般知識を理解する。

中学2年

読む能力

- 1) 説明文を読んで、文章の内容を理解することができる。説明対象の特徴、説明の順序と説明の方法を理解し、言葉の論理性を体得する。引き続き記述文を読む能力を養い、何篇かの議論文を読む。
- 2) 引き続き常用語彙を増やし、身につける。「基本課文」の一部を熟読して、暗唱する。
- 3) 文語文を読んで、大体的内容が理解できる。
- 4) 新聞を読む習慣を養成する。課外に4, 5冊の本を読む。

書く能力

- 1) 5, 600字の説明文が書ける。正確に表現でき、筋道が通り、事物の特徴をつかんでいる。例をあげること、数字を列挙し比較するなど、説明の方法を使うことができる。
- 2) 記録文を書くとき、詳しく書くところと概要だけ書くところ、ぜひ必要な描写と議論部分があることを理解する。
- 3) 文章について学習し、語彙の正確さ、語句の使い方、論理に注意する。
- 4) 通信文の書式を身につけ、普通の手紙が書ける。簡単な記事の書き方を学ぶ。

聞く・話す能力

- 1) 人の話を聞いて、意味が正しく理解できる。
- 2) 人と話し合う場合、適切な言葉を使うよう注意する。みんなのまえで意見を発表する場合、意味がはっきりしていて、態度が自然であること。
- 3) 資料を使って、事物をはっきり紹介できる。

基礎知識

- 1) 一部の同義語と反対語を区別、分析する。言葉の感情表現に注意する。
- 2) 単純な文について主語、述語、目的語、連体修飾語、連用修飾語、補語などいくつかの構成部分を理解する。文についての重要部分がわかる。言葉の誤用を正すことができる。
- 3) 反語・設問などの修辞知識を理解する。
- 4) 説明文に関する一般知識を理解する。散文と詩歌の一般常識を理解する。「基本課文」に関係のある重要な作家や作品について理解する。

中学校3年

読む能力

- 1) 議論文を読んで、文章の思想内容を理解し、その文章が力説する観点を把握し、論証の方法を理解し、言葉の厳密性について会得することができる。引き続き記述文・説明文を読む能力を養う。
- 2) 常用語彙、語句を増やし、身につける。「基本課文」の一部を熟読し、暗唱する。

- 3) 文語文が流暢に読め、だいたいの内容が理解できる。
- 4) 課外に4～5冊の本を読む。適切な難易度の政治・科学技術・文芸の読み物について、ある程度批評、分析をすることができる。

書く能力

- 1) 5, 600字の簡単な議論文が書ける。周囲で起こったできごとについて、自分の見方で、正確な根拠をあげ、分析を加えて発表できる。
- 2) 記述文を書くとき、説明、議論などの表現方式を使うことができる。
- 3) 級友の作文を批評し訂正することを学び、主な長所と短所をつかむことができる。
- 4) 読書ノートの書き方を学ぶ。講演の記録を原義をそこなわずに整理することを学ぶ。一般的な実務文が書ける。

聞き、話す能力

- 1) 一般的な報告を聞いて、内容を簡略に述べることができ、要点をまとめることができる。討論に参加し、それぞれの意見の食い違いがどこにあるかを聞き分ける。
- 2) ポイントをつかんだ短いスピーチが、自然な態度でできる。
- 3) 問題を討論するとき、自分の見方を発表することができる。その際観点が明快で筋が通ったものであること。

基礎知識

- 1) よく使われる複文を理解し、常用関連語彙・語句を身につける。
- 2) 必要に応じて文型を変えることを学ぶ。
- 3) 引用・対比などの修辞知識を理解する。
- 4) 議論文の一般知識を理解する。小説と劇の一般常識を理解する。教科書の基本課文に関連のある重要な作家と作品について理解する。

4. 中国朝鮮族の教育水準

少数民族の漢語教育の現場で実際に使われている教科書の事例としてここでとりあげるのは、中国東北部の朝鮮族の初級中学で使われている漢語教科書とその教学参考書である。朝鮮族は中国の少数民族の中で最も教育水準が高いといわれる民族である。中華人民共和国が成立後間もない1952年に吉林省延边朝鮮族自治州が成立し、その時点から初等教育の基本的な普及をみている。また、58年には青壮年層にたいする識字教育もほぼ完了していたという⁽¹⁶⁾。教科書の内容検討に入る前に、朝鮮族が最も聚居している吉林省延边自治州の教育水準に関するデータを見ていくことにする。1982年の人口調査結果に基づいて、100万人以上の人口を持つ15の少数民族についておこなわれた学歴調査の結果が表1、識字率の調査結果が表2である。

表1 100万人以上の人口をもつ少数民族の文化程度

民 族	大学卒業	大学在学	高級中学	初級中学	小 学
全国平均	44.1	16.0	662.7	1775.0	3539.5
各少数民族平均	27.5	9.9	454.4	1222.7	3019.7
蒙 古 族	55.1	26.2	794.1	1682.2	3411.7
回 族	52.2	17.2	634.6	1665.1	2620.8
藏 族	15.2	5.0	100.0	332.6	1651.8
維吾爾族	21.3	11.5	349.3	1028.5	3299.1
苗 族	8.9	2.9	193.5	714.8	2471.6
彝 族	5.8	2.3	124.9	601.7	2335.3
壮 族	16.7	5.2	529.4	1380.0	3696.6
布 依 族	9.8	3.9	174.8	869.6	2654.1
朝 鮮 族	149.5	46.4	1834.6	3068.7	2847.8
・ 満 族	67.7	19.7	915.1	2316.8	3828.6
侗 族	14.9	6.2	301.4	1053.5	3360.3
瑶 族	10.9	3.1	303.0	772.8	3236.6
白 族	28.9	12.1	359.4	1274.9	3360.3
土 家 族	12.3	3.3	471.6	1403.0	3962.0
哈 尼 族	3.1	1.2	85.7	478.9	1799.4

(1万人中の該当人数を示す)

[李 1987:126]

また、延辺朝鮮族自治州での各学校の入学率（1983年統計）は、

幼稚園（3－6歳） 75%

小学校 99.1%

初級中学 93.1%

となっており、進学率も、1984年の統計によれば、小学校から初級中学へが92.6%と、ほとんど全員が中学へ進学している。ちなみに全国平均は1985年の統計で68.4%、1993年の統計でも81.8%である。

識字率についても、1985年の時点で、吉林省の12－40歳人口における識字率は96%となっている。すなわち高齢者と幼児をのぞき、非識字の人はほとんどいないといえよう。89年から吉林省では全面的な6年制義務教育制が実施され、農村部の生徒の入学率は98.37%、入学後の定着率は99.07%、卒業率97.68%といずれも高い数値である。⁽¹⁷⁾

さて、以上のとおり、高い教育水準をもつ朝鮮族が実際に使用している教科書とはどのようなものであろうか。

表2 100万人以上の人口を持つ少数民族の識字率

民 族	12才以上の人口中に占める 非識字・半非識字率 (%)		
	合 計	男	女
全 国	31.87	19.15	45.23
各少数民族	42.54	29.66	55.85
蒙 古 族	28.46	21.05	36.41
回 族	40.71	29.45	52.29
藏 族	74.31	60.88	86.78
維吾爾族	42.18	38.87	45.69
苗 族	58.11	39.54	77.69
彝 族	61.65	45.74	77.75
壮 族	31.37	15.73	46.99
布 依 族	55.53	33.43	77.69
朝 鮮 族	10.50	4.69	16.07
・ 満 族	17.02	11.88	23.13
侗 族	44.59	25.14	65.84
瑤 族	46.91	30.48	64.26
白 族	41.27	20.81	61.61
土 家 族	33.38	19.91	48.21
哈 尼 族	70.12	56.08	84.38

[李 1987:127]

5. 朝鮮族の漢語教科書

まずはじめに、朝鮮族の漢語教科書の一般状況について見ていくことにする。漢語教科書は、延辺教育出版社漢語文編輯室、または東北朝鮮民族教育出版社漢語文編輯室で編輯し印刷されたものが、東北三省および内蒙古自治区の朝鮮族小中学校で使われている⁽¹⁸⁾。学制として二期制をとっているため、教科書は各学年ごとに上下2冊出されている。発音教材および漢字教材は小学校低学年むけとして準備されている。中学では学年別に読書教材として漢語文閲読文選が用意されている。各課の課文には録音テープがあるということであるが、筆者は入手していない。教員の指導用として教科書1冊ごとに「教学参考書」が出版されている。

教科書の主な編輯内容を小中学校別に見ると以下の通りである。⁽¹⁹⁾

小学校

先ず絵を見て話すことから始め、ピンインを学び（半年間）、学校での常用会話、簡単な漢字と進んでゆき、短文、口語を学び、課文と関連させながら語彙を学ぶ。最終的には1,600字を学ぶ。

初級中学

課文と関連させて文型，常用複文，語彙等を学ぶ。また，読書力，作文力をつけていく。漢字は2,600字を学ぶ。

高級中学

読書力と作文力の向上に重点を置く。課文と関連させて複文を学び，語彙を増やす。500字程度の文章を書けることが要求される。文法に関しては，文型，虚詞，語法知識などに分け系統立てて教授される。

ところで，少数民族の使用している教科書には独自に編集したものもあるが，各教科の全国通用教科書を民族言語に翻訳したものが多い。しかし語文教科書（国語教科書）に関しては状況が異なるようである。当然のことながら，全国通用教科書が教育対象としているのは漢語を日常語として使っている生徒である。従って非漢語が第一言語である生徒には，全国通用教科書を参照しつつ，第二言語としての漢語を導入していく教材、即ち『漢語文』教科書を編纂しなければ実状に合致しない。教科書の内容だけでなく，指導方法も母語と第二言語とでは無論異なっていく。語文教科書と漢語文教科書の違いについて、二種類の教科書を比較することによって、全国通用教科書と民族教科書の異同を知る手がかりとしたい。比較するのは、中小学通用教材小学語文編写組編『全日制十年制学校小学課本語文』第9冊（1980年）と東北朝鮮民族教育出版社漢語文編輯室編『初級中学課本漢語文』第1冊（1984年）である。

『初級中学課本漢語文』第1冊は表紙に改訂版の表示はないが，見返しに「改訂説明」として，「当面の漢語教学にあわせて，昨年当編輯室は現行の漢語文課本に大幅な改訂を行った。改訂版は1993年から導入される新編教材が使用されるまでの間の過渡的な教材とする。多くの教員および生徒からの意見に基づき，従来課本と組み合わせて出版していた『漢語文 閲読文選』を本年は出版しないこととし，かわりに，課本の一番最後に「独立閲読課文」（各10篇）を置き，生徒が講読，作文にあわせて適量の課外閲読を行えるようにした。」とある。出版は1984年7月となっているので，説明中の「昨年」はその1年前かと思われるが不明である。また，本教科書の教員用参考書「教学参考書」（延辺教育出版社 1988年）によれば，この教科書は1988年秋から使用を始めたということである。1993年からの新編教材は9年制義務教育の普及と歩調をあわせて導入されるもので，本来ならば両者を比較しながら見ていきたいところであるが，93年版未見のため，84年版にもとづくことにする。

『小学語文』第9冊は小学5年生の前期に使用するものであり、『漢語文』は中学1年の前期に使用する教材であるが、『小学語文』の第9課，『漢語文』の第7課はいずれも許地山の散文「落花生」を課文として採用している。それぞれの教科書が同じ文章をどのように取り扱っているのか比較していくことにする。

『小学語文』では「落花生」には「習作例文」と副題がつけられており，作文の例文として位置づけられている。課文の後にある説明の部分には「文章を書く前に，その文で何を言

いたいのか、何が一番重要でその次に重要なのは何か、よく考えよう。一番重要なことに重きを置いて書こう。そのようにして書いた文は、誰が読んでもわかりやすく、心に残る文となる。」と記されている。設問も、1. この文を読んで一番印象に残るのはどの部分か？ 落花生の特徴を知ってためになったか？ 2. この文は何を一番言いたいのか？ 一番重要なのはどの部分か、二番目はどこか？ 3. この文から文章の書き方についてどのようなことを学ぶことができるか？ といったような、課文全体を理解し把握していることを前提として出題されており、作者の意図を理解したり、修辞法を学ぶことなどが主眼となっている。

ところが、『漢語文』では、「落花生」は朗読、暗唱、内容に関する質問に答えるなどの練習を通して、思っていることを的確に伝える能力を養うための教材として位置づけられている。教学参考書のこの課の部分を見ると、「課文の新出漢字と単語の意味を理解させたのち、課文の朗読、暗唱、書き写しを行う」となっている。また予習項目として「新出漢字が正確に読めるようにし、難しい単語の意味を理解し課文の朗読ができるようにしておく」と指示を与えている。さらに、「この課文は会話が多いので、役をふりあてて朗読させ、漢語の会話口調を学ばせる」として、朗読を通して様々な学習を進めようとしている。このように朗読、暗唱に重点を置いていることは、課文の文字の上に四声符号がつけられていることから理解できる。ちなみにこの教科書で課文に四声符号が付けられているのは全19課の中で3課だけである。課文の最後についている練習問題は、発音や類語に関するもの、未完文を完成させるもの、課文の穴埋め、列挙した課文の概要から適切なものを選ぶ、課文の暗唱などである。以上からわかるように、『漢語文』では『小学語文』のように生徒がかなりの程度自力で内容を理解できることを前提としているわけではなく、むしろ内容理解以前に、正確な読み、単語や句の意味の理解が必要であり、次の段階で課文の段落分け、各段落の内容理解という具合に学習を進めている。『漢語文』では「落花生」の他にもう一つ『小学語文』5年制後期の作文練習用課文を採用しているが、それに対しても学習の重点を朗読、暗唱に置いている。このような一部分の比較だけで全体を推し量ることはできないが、しかし傾向の一端を知ることができた。また、ここで比較した『漢語文』を使用しているのは、全国でも教育水準の高い民族であるが、もし教育水準の低い民族であれば、全国通用教科書と民族教科書との距離が更に大きくなることは想像に難くない。

6. 教学参考書

『漢語文』の各課の指導方法について、『教学参考書』は教学目的と目標、教学提案、教学参考、練習問題の模範解答、資料の5項目に分けて細かい指示を与えている。『漢語文』第1冊の各課の指示内容をまとめたものが表3である。『教学参考書』において指導方法の一つとして特に重点を置いて解説を加えているものに「語段訓練」がある。初級中学では漢語の発音記号（ピンイン字母）をしっかりと覚えさせるとともに、学んだ漢字、語、短文を繰

表1 100万人以上の人口をもつ少数民族の文化程度

課	教学目的と目標	教学提案
第1課	1. 漢字24字, 単語35 2. 「在」の3種の用法を復習 3. 課文を熟読し, 全文を暗唱 4. 十月革命を理解させる。	1. 予習: 課文を読み, 新単語を学ぶ 2. 3講時
第2課	1. 漢字25, 単語40 2. 能願動詞の復習 3. 正確, 流暢に課文を読む 4. 第4段を暗唱	1. 4講時
第3課	1. 漢字21, 単語31 2. 正確に課文を読む	1. 反復朗読 2. 辞書の引き方を学ばせる 3. 2講時
第4課	1. 漢字22, 単語37 2. 「象・・・似的」の用法 3. 連動文の形を覚える (文法知識より運用) 4. 課文を正確, 流暢に読む 5. 課文の暗唱 6. 練習問題に答えられる 7. 母の愛の偉大さを学ぶ * ツルゲーネフの「獵人日記」	1. この物語の主張は何か学ぶ 2. 4講時
第5課	1. 漢字22, 単語33 2. 主述述語文の形を理解 3. 課文の正確な読みと全文暗唱	1. 絵をみせ砂漠と駱駝を理解 2. 駱駝の能力を課文から抜き出させる 3. 4講時
第6課	1. 漢字11, 単語21 2. 主述述語文の形を理解 3. 課文の正確な読み, 全文暗唱	1. 新語を辞書で引く 2. 課文の概要を言わせる 3. 書かせる(作文に重点) 4. 2講時
第7課	1. 漢字11, 単語21 2. 複文(因果, 逆転)の復習 3. 課文の朗読, 暗唱	1. 課文が短く, 分かりやすいので, 暗唱, 書き写し, 内容質問を行う

中国少数民族の漢語教材

第8課	1. 漢字25, 単語18 2. 課文の朗読 3. 課文の重要単語を使って作文 4. 毛沢東の事跡を理解する	1. 課文の脈絡を捕らえる 2. 語感を理解させる 3. 4 講時
第9課	1. 漢字17, 単語28 2. 類似語の理解 3. 兼語式の用法 * ベチューンについて解説	1. 課文の暗唱 2. 練習問題について質問 3. 4 講時
第10課	1. 漢字24, 単語33 2. 課文の閲読と理解 * 課文は古典故事 * 漢字の書き方の指導	1. 課文を黙読 2. 読めない字を辞書で引く 3. 2 講時
第11課	1. 漢字25, 単語37 2. 「把」の使い方 3. 段落ごとの内容把握	1. 予習：単語の意味 2. 課文を朗読させ内容を質問 3. 4 講時
第12課	1. 漢字13, 単語18 2. 「越・・・越・・・」 3. 「有」の兼語式と「被」の用法 4. 課文の暗唱	1. 成語の理解 2. 課文の暗唱 3. 4 講時
第13課	1. 漢字15, 単語30 2. 感情を込めて課文朗読	1. 2 講時
第14課	1. 漢字 9, 単語16 2. 「一・・・也」の用法 3. 「什么・・・也」の用法	1. 3 講時
第15課	1. 漢字23, 単語35 2. 所定の語句を使って作文 3. 課文暗唱 4. 感情こめて朗読 5. 周総理への敬愛を深めさせる	1. 段落ごとにサブタイトルをつけさせる 2. 4 講時
第16課	1. 漢字16, 単語35	1. 課文熟読 2. 課文を用い作文練習

第17課	1. 漢字22, 単語36 2. 「的」の用法 3. 課文熟読, 暗唱 4. 紅軍への尊敬をもたせる	4. 紅軍の紹介をする 5. 新単語が多いので似た字に注意させる 6. 課文の一部暗唱 7. 4 講時
第18課	1. 漢字 7, 単語23 2. 「了, 着」「給」の用法	1. 課文を短縮して書く 2. 4 講時
第19課	1. 漢字16, 単語27 2. 「象・・・一様」用法 3. 流暢正確に読む 4. 課文の一部を暗唱, 暗記	1. 主人公の紹介をさせる 2. 4 講時

り返し学ばせて記憶させることが重要であるが、それだけではなく、作文力を高めるために、語句や短文を連ねていく訓練を行う必要がある。語句を連ねて短文を作り、短文を連ねれば段になり、段をつなげていけば文章になり、文章作成能力を養うことができるとしている。具体的な練習方法としては、生徒が学んでいない文章を文単位でバラバラにして与え、それらを並べてもとの文章に戻す。あるいは、生徒に説明の部分の文だけを書いたものを与え、その冒頭のまとめの文章を書かせる。またはその逆の形式などが紹介されている。「語段訓練」が実際の授業の中でどの程度実施されているのか不明であるが、各課の教学参考の項には必ず課文の段落の分け方、および各段落の概要の解説が記されているのは、上記の訓練を前提にしているのであろう。

中国朝鮮族の『漢語文』教科書を少数民族の使用している国語教科書の一例として見てきた。この教科書の課文には、記叙文、説明文、散文、物語、寓話、外国文学の翻訳などが採用されている。中学の語文教科書の今後の傾向として閲読と作文の強化があげられていると聞いている。各民族の『漢語文』教科書が今後どのように変化していくのか、興味深い。

本稿は語文教学大綱の歴史とその概要、および語文教科書の全国通用版と民族版を比較しつつ概観したものである。中国の新たな教学方針、少数民族のための語文大綱、朝鮮族以外の少数民族教科書の事例など、今後の課題として引き続き研究を行っていきたい。

謝辞

本稿執筆にあたり、中国の漢語教科書および教学参考書を借用させてくださった教育学部の清田善樹教授、少数民族に関する資料をご教示くださった外国学部の胡起望教授に感謝いたします。

註

- (1) 『中国教育事典』編集委員会 1994：837。
- (2) 陶 1994：140。
- (3) 『中国教育事典』編集委員会 1994：291。
- (4) 陶 1994：141。
- (5) 『中国教育事典』編集委員会 1994：299－300。
- (6) 陶 1994：141
- (7) 『中国教育事典』編集委員会 1994：232－233, 309。
- (8) 同上 1994：244
- (9) 陶 1994：142。
- (10) 『中国教育事典』編集委員会 1994：267。
- (11) 陶 1994：142
- (12) 陶 1994：143
- (13) 1982年3月教育部から「全日制民族中小学漢語教学大綱（試行草案）」（以下「民族大綱」と略す）が発布され、少数民族のための教科書の方針が示された。「民族大綱」には少数民族が漢語文を学ぶ意義、漢語文授業の性格、教学目的、教学目標、さらに教学の問題点なども示されているという。「民族大綱」は「教学大綱」を踏まえて作成されており、当然参考にしなくてはならないのであるが、未見のため今回は「教学大綱」にもとづいて検討した。両者の比較を今後の課題としたい。
- (14) 南本 1995：148－161。
- (15) 趙 1988：288。
- (16) 『中国教育年鑑』編集部，1990：517。
- (17) 漢語教科書によって「東北朝鮮民族教育出版」編のものと「延边教育出版社」編とに分かれる。どのような仕組みになっているのか不明である。
- (18) 崔 1993：238－239。

参考文献

東北朝鮮民族教育出版社漢語文編輯室

- 1984 a 『初級中学課本 漢語文』第1冊 東北朝鮮民族教育出版社。
- 1984 b 『初中漢語文第二冊 教学参考書』東北朝鮮民族教育出版社。
- 1985 a 『初級中学課本 漢語文』第4冊 東北朝鮮民族教育出版社。
- 1985 b 『初中漢語文第四冊 教学参考書』東北朝鮮民族教育出版社。
- 1985 c 『小学課本 漢語文』第9冊 東北朝鮮民族教育出版社。
- 1986 『初中漢語文第六冊 教学参考書』東北朝鮮民族教育出版社。

延边教育出版社漢語文編輯室

- 1985 『初級中学課本 漢語文』第3冊 延边教育出版社。
- 1988 『初中漢語文第一冊 教学参考書』第1冊，第3冊，第5冊。延边教育出版社。

中小学通用教材中学語文編写組編

- 1978 『全日制十年制学校初中課本（試用本）語文』第1冊。人民教育出版社

- 1980 『全日制十年制学校小学課本（試用本）語文』第9冊，人民教育出版社
国家編纂出版委員会
- 1994 『中国教育体系—現代教育理論叢編』上下卷 湖北教育出版社。
国家民委經濟司，国家統計局綜合司
- 1991 『中国民族統計』中国統計出版社。
『中国教育年鑑』編集部
- 1991 『中国教育年鑑』人民教育出版社。
陶西平
- 1994 『教育工作博覽』北京工業大学出版社。
『中国教育事典』編集委員会
- 1994 『中国教育事典』中等教育卷 河北教育出版社。
教育大辞典編纂委員会
- 1992 『教育大辞典』4卷 上海教育出版社。
国家統計局国民經濟綜合統計司
- 1995 『中国民族統計年鑑』民族出版社。
『中国基礎教育教学研究』編委会
- 1993 『中国基礎教育教学研究』第1卷 北京師範大学出版社。
『当代中国的民族工作』編輯部
- 1989 『当代中国民族工作大事記』1949—1988 民族出版社。
張天路
- 1991 「80年代中国少数民族人口發展概況」中国社会科学院人口研究所編『中国人口年鑑』經濟管理出版社，pp.87—97
- 1993 『中国少数民族社区人口研究』中国人口出版社。
崔京善
- 1993 「論社会主义初級階段朝鮮語文的地位」中国社会科学院民族研究所，国家民委文化宣傳司編『中国少数民族言語文字使用和發展問題』中国藏学出版社，pp.23—27。
崔吉元
- 1993 「朝鮮学校漢語文教学問題」中国社会科学院民族研究所，国家民委文化宣傳司編『中国少数民族言語文字使用和發展問題』中国藏学出版社，pp.236—245。
宣德五
- 1993 「我国朝鮮中小学双語文的使用和教学問題」中国社会科学院民族研究所，国家民委文化宣傳司編『中国少数民族言語文字使用和發展問題』中国藏学出版社，pp.204—212。
於宝林，華祖根
- 1995 『中国民族研究年鑑1993』民族出版社。
謝啓昆，孫若窮
- 1991 『中国民族教育發展戰略抉擇』中央民族学院出版社。
『当代中国』叢書編輯部
- 1993 『当代中国的民族工作』下卷 当代中国出版社。
趙恒烈
- 1988 「中国少数民族教育的現狀と未来」齊藤秋男編『教育のなかの民族』明石書店。

中国少数民族の漢語教材

南本義一

1995 『中国の国語教育』 溪水社。

關延河

1991 「80年代中国人口教育發展概況」 中国社会科学院人口研究所編『中国人口年鑑』 經濟管理出版社, pp.52—57。

劉明章

1995 「朝鮮歴代漢語文教学与研究考略」『第四届国际漢語教学討論会論文選』 編委会編『第四届国际漢語教学討論会論文選』 北京語言学院出版社, pp.196—201。

李成瑞

1987 『中国人口普查和結果分析』 中国財政經濟出版社。